

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2072200443		
法人名	医療法人 緑風会		
事業所名	グループホーム 御姫尊		
所在地	長野県東御市祢津337-2		
自己評価作成日	平成22年12月10日	評価結果市町村受理日	平成23年4月4日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2072200443&amp;SCD=320">http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2072200443&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A		
訪問調査日	平成23年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

このグループホームは1事業所2ユニットで運営されている。いずれのホームも外で日光浴を楽しんだり、お茶をしたり、団樂の場がもうけられている。遠く立科山・八ヶ岳連峰を望み、ホームの周囲は豊かな田園地帯を映し出している。建物内は全てバリアフリーで中心にホール・居間・台所(IH)が設けられており囲むように1人1室の居室が設備されている。職員もそれぞれの立場でケアサービスの向上に誠意をもって取り組んでいる。又、利用者様の能力に応じた調理・配膳・食器の後片付け・食器洗い・洗濯物干し・洗濯たため・園芸・作物作り等が一緒に出来るような環境を作り出している。レクレーション(風船バレー・カラオケ・かるたとり・言葉遊び・塗り絵・計算ドリル・ラジオ体操等)を実施し、地域のボランティアの方々が頻りに訪問して、利用者様の心の拠り所となっている。家族・地域の方・区の役員・ボランティアとの交流会を年2回開催し好評を得ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年10月に同敷地内に建てられていた2事業所であるグループホームが1事業所として医療法人緑風会「御姫尊」として運営している。デイサービス利用者も受け入れを行っている。道路をはさんで診療所があり主治医となっており、外科以外の診療科目が歯科を含めそろっているため利用者や家族は安心できる環境となっているようである。また、夜間等緊急時には診療所と連携が取れ看護師が訪問してくれる為職員も安心して介護にあたる。また、老人保健施設、介護療養施設があるため利用者の入居時には、重度化に対する家族意向も確認し、医療依存が高くなると他施設への移行等についても話をし、家族の安心を得た状況で入居される方が多い。また、地域密着型サービスとしての役割は十分理解され、地域に馴染んだホームでありボランティアの来所や地域行事への招待も沢山あり全員参加し楽しむ時間がとても多いようである。職員は、マニュアルの見直しや外部研修などにも参加しホームで暮らす利用者の気持ちの理解に努め日々の介護にあたっている様子が窺えた。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(1)		項目	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
ユニット名(2)				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>実践につなげている。 GHの「理念」を利用者・家族・訪問者・等見やすい場所に提示して啓蒙に努めている。月2回の会議においてもその都度確認している。</p>	<p>ホーム内には理念が掲げられ、地域密着型としての意義が追加された。管理者やケアマネジャーは日々の中で理念が大切であることを伝えている。職員も利用者に接するうえで利用者の声に耳を傾け、意志尊重を重視しているケアの様子が窺えた。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>日常的に交流している。 この地域のボランティア・区・小学校・ホームの隣組の区費も支払い一員として参加して、お互いに交流を深めている。</p>	<p>地域がボランティアの方が週1回は訪問し話をしたり、小学校との交流もあり運動会に招待されホーム全員参加で席が用意され楽しむ。小学生が定期的に訪問しカルタや歌を歌い、地域との交流は沢山ある。また、伝統ある小学生の歌舞伎への招待もあり特別な行事参加もある。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>活かしている。 地域の人(区長・民生委員等)運営に関して報告をして問題点・支援・など意見交換をしている。又、認知症の人が区の行事にも招待されている。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>活かしている。 同上</p>	<p>運営推進会議は区長、民生委員、包括職員、家族代表等が集まり、ホームの状況説明や出席した小学校側からも交流への依頼や小学生が通うために安全確保のための歩道設置など提案がなされるなど積極的に意見交換がなされている様子である。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>協力関係を築くように取り組んでいる。 市の特に包括支援センターの係長とはお年寄りの支援環境を話し合い、可能な限り協力している。</p>	<p>包括職員とは、町で困難ケースがあれば一緒に考え、入所支援を法人全体で考え、緊急回避できる支援等、連携を取っている。</p>	

外部評価結果(グループホーム御姫尊)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。 マニュアルを手本にして職員会議に勉強会をした。10/11	外部研修への参加も行き、マニュアルも新たに作成された。玄関の施錠については鍵をかけることの弊害は十分理解されているが、入浴時等職員が手薄の時間等は一時的に施錠することがあるが夜間以外は施錠のない生活に努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	防止に努めている。 マニュアルを手本にして職員会議に勉強会をした。10/11、肉体的虐待は入浴時に注意を払っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援している。 6/9、市社協に来て頂き、自立支援事業・成年後見制度について職員研修を行った。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	図っている。 利用者・家族様より十分な説明を行い同意書を頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	反映させている。 運営委員会においては家族が参加しており、年1回の利用者・家族・ボランティア・区の主だった人との交流会を行い、意見を聴衆している。	年に3回は家族会があり50人以上が参加し盛大に開かれる。そんな機会に家族へ利用者の様子を伝え、家族からの率直な意見を伺う良い機会ともなっている。運営推進会議でも家族が出席し意見の表出しの機会は多数設けている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	反映させている。 月2回の会議を開催して職員の意見・提案を聞き、討論している。	全体会議が月に2回開かれる。職員の意見等は理事長との意見交換ノートがあり意見を反映している。交換ノートを利用しアドバイスがなされたり、検討会議を再度行うなどすぐに回答があり、仕事へ反映される。また月2回リーダー会があり早朝ミーティングでも意見を言う機会がある。	

外部評価結果(グループホーム御姫尊)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。 評価表(自己評価・責任者評価)を年2回実施し、労働意欲の向上を図っている。労働条件に関しては、職員個人の休暇も聞いて要望に応じている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	進めている。 今年度も認知症介護実践研修・開設者研修と3人の研修を受けさせることが出来た。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組みをしている。 施設・病院・包括支援センター・社協の職員が来所して施設の概要・視察などをして相互の介護について話し合っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。 利用者本人の生活歴・身体的・精神面・社会性等利用者家族・本人から聞きだすマニュアルがあり、それにより本人の要望に添うようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	関係づくりに努めている。 サービスを導入する前に利用者本人・家族等に施設に来て頂き昼食も経験して、1日の流れを体験しながら職員との関係づくりをしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同上		

外部評価結果(グループホーム御姫尊)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	関係を築いている。 職員と本人は1日の生活の中でその本人の能力に応じた食事づくり、後片付け、洗濯物の仕分け、たたみ等一緒に協力しあって行っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築いている。 日々の変化、体調不良等生じた場合などは密に連絡して共に解決に向かって努力している。又家族等の交流会を実施して情報を共有している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	支援に努めている。 馴染みの人、家族等が何時、施設に訪問に来て365日受け入れをしている。又、親しかった人、近所の人と一緒にどうぞと働きかけている。	利用者が住む近隣の人や友達が訪ねてくれる。家人が墓参りに連れていく。利用者が希望すれば利用者の家まで連れて行き安心して戻ってくる。なるべく多くのなじみの方が来てくれるように声かけをしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	支援に努めている。 利用者各々の能力を理解して、その人の役割に応じた生活訓練が出来るように声掛けをしてレク・食事づくり等に参加している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	支援に努めている。 施設から退所しても病院・介護施設に赴き状況を把握して家族の相談にのっている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めている。 入所時に家族・本人に思いや、嫌な事、好き嫌いの食べ物、どのような生活がしたいのか等マニュアルで意向を把握しようとしている。	入所時に、家族や利用者がホームでどのような生活をしたいか、今まで生きてきて楽しかったことや好み等を記録していただく記録票が作成されており、記録を参考に本人本意の生活を把握し検討している。	

外部評価結果(グループホーム御姫尊)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。 同上		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。 一人ひとりの業務日誌、チェック表により、その日の状態観察の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成している。 夜勤者の申し送り事項があればそれを活かし、医療機関・介護関係者・家族等の希望、又職員の意見等考慮して介護計画を作成している。	3ヶ月ごとの評価、見直しを行っている。職員は利用者の担当制をとっており日々の変化を確認し連絡している。また全体会議を月2回行っていることから会議の中で利用者の課題等が話されその都度利用者の状態に即したケアプランの見直しを行っている。家族の意見は来所時に話を聞きプランへ反映する。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている。 NO25に同じ 職員間の情報の申し送りは専用のノートにより共有化を図り実践をしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる。 業務日誌、チェック表、夜勤者の申し送り事項を聞き、介護方法、機能訓練等考えて日常の生活に活かすようにしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。 利用者と職員が関わり、近くの小学校にエコたわし、匂い袋(ラベンダー)を配布したり、運動会、音楽会に参加して交流を図っている。		

外部評価結果(グループホーム御姫尊)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。 道を挟んで診療所があり、受診は容易である。又、急変時においては診療所に連絡をとり往診したりして適切に対応している。家族にも報告・相談している。	かかりつけ医は、入所時に家族と相談し法人の診療所医師が主治医になる。診療所には外科以外の全ての科が整っているため適切な医療が受けられている。受診時には医師との連絡票に記載し指示を仰ぐ体制ができ、職員間の共通認識になる。家族連絡も随時行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。 本人の訴えを医療と連携して訪問看護師に結びつけて、点滴、処置等行っていた。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係づくりに努めている。 利用者が入院した時など病状の推移などの状況を得るため入院先の病院に訪問して退院に向けてのプランを病院側と相談している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる。 家族には入所するにあたって重度化(緊急時含む)した場合、どのような介護・医療がしてほしいか、方針を聞いているようにしている。	ホームは、法人として医療等受けられる施設整備が段階的に整っているため、入居時に医療行為が必要になった時の法人の関連施設の説明も行い、理解や安心を得る。家族の意向を伺い尊重できる支援をしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	身につけている。 利用者の緊急時に何時でも対応出来るようにその利用者ごとに朝・昼・夕・お茶時、一般状態が少しでも変化したら事故発生を想定して初期の対応を話し合っ訓練をしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	協力体制を築いている。 防災訓練を消防署・地元の区の役員で年2回実施している。その時に利用者も一緒に訓練を行っている。	スプリンクラーは設置されている。年に2回の避難訓練と消火訓練がなされている。消防署や区長、民生委員等が参加し実際の避難を行っている。夜間想定した訓練、緊急連絡網の訓練を行っている。法人の関連施設の協力支援体制がある。	



外部評価結果(グループホーム御姫尊)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応をしている。 入所時に利用者本人の生活歴・社会性・身体的・精神的等を家族・本人から聞いて介護に活かして、プライドを確保している。 (マニュアルがある)	マニュアルの整備もなされ、研修会も行われた。排泄時に失禁する利用者にさりげなく部屋に行ったときにプライドを気づけないように汚れたりハパンを片づける等一人ひとりの人格に配慮した対応に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。 いくつかのイベント・ボランティア・地域の行事にも本人の意思を確認したり、食事等においては個人の選択を重視して希望にかなうように配食している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援している。 運動(体操1日に4回)・施設内歩行訓練・食事の摂取時間についても本人のペースに合わせゆったりした時間配分に心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。 家族から着替え、衣服(下着も含む)などお預かりしているので週2回、入浴後本人と相談しながら更衣をしている。3ヶ月に1度、美容師が訪問している。季節ごとに更衣を促している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に準備、後片付けをしている。それぞれの能力に応じて役割を配分して一緒に食事の準備、配膳、後片付けなど創意工夫して和やかな中で行っている。施設内での飾り物も利用者と一緒に役割分担をしている。	献立は曜日で決められているものもあるが利用者の好みを聞き作ることも多い。誕生会には弁当や目先を変え食事を楽しくするように工夫している。定期的に法人の栄養士が来てアドバイスしたり嗜好調査などしている。利用者は一緒にできる方は野菜を切る、配善の手伝いの姿も見られた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援をしている。 入所者の疾患もそれぞれなのでその人なりの摂取方法で対応しており定期的に管理栄養士に確認をしている。		

外部評価結果(グループホーム御姫尊)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアをしている。 1日1回、義歯が大部分ですので、寝る前に全員行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援を行っている。 自己の周囲の事が少しでも出来てもらうため上肢、下肢の筋力をつけている。排泄についても職員が時間に付き添っている。	時間でトイレ誘導する方にも立ち上がった時について誘導したり、本人に無理にならないように誘導する。一人ひとりの排泄パターンを把握することでプライドに配慮した排泄支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防に取り組んでいる。 病気よっての食事の制限もあるので食事には注意を払っている。便秘については繊維食品・水分摂取、又、薬・運動等に注意を払っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々にそった支援をしている。 その人が「入浴したい」と言えば曜日は問わず希望に添うようにしている。	入浴は、基本的には週2回である。一人ひとりの利用者の希望や状況に合わせて、午前中から午後にかけて利用者のタイミングを見て入浴を行う。夏などは利用者の希望でシャワーを毎日行う方もいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	よく眠れるように支援している。 利用者が眠れないような状況の時は職員がホールで本人の言い分を聞き、落ち着かせ安心させるよう傾聴に心がけている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。 症状に応じて、主治医と相談をして薬の投与をしている。薬の用法、用量、副作用等は薬剤師に聞き理解している。又、文献なども用意してもらっている。		

外部評価結果(グループホーム御姫尊)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援している。 それぞれの能力に応じた、好きな役割を提供できるように配慮している。時には嗜好品、利用者の要望を聞き食事・レクにも応じている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	支援している。 春には区主催の「歌舞伎」を観たり「回転寿司」、GHの交流小学校の運動会、音楽会等に参加して利用者に喜ばれている。	暖かい時には玄関先のテラスでお茶を飲み屋外に出て過ごすことが多い。屋外に出たい方は買い物時に一緒にお連れするなど閉じこもりにならないように工夫をしている。音楽会や花見に出かけ、回転ずしに行き自分が好きな物を食べたり、地域からの行事への招待も多く戸外に出掛ける機会も多い。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援はしている。 家族との話し合いの中で僅かな所持金を持っている。本人の要望、必要時においては家族に連絡をとって対応している。時には買い物に同伴することもある。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。 利用者が家族、知人、関係者に連絡をしたい時、ほとんどが電話でその時に即電話をしてやっている。不在の時は夜勤者が便宜をはかっている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫をしている。 共用の場所は利用者本人達が季節ごとの塗り絵をして季節感をだし、貼りだしている。季節ごとのレクを実施している。野外レクの場合は実施後写真を掲載して行動暦を残している。	ホーム内には、利用者が1年を通して屋外に出掛けたり、家族、地域の方と過ごし笑顔いっぱいの写真が貼られ、ぬり絵等も掲示されている。利用者の部屋はなじみの山の名前がつけられており親しみやすい。共有スペースにはデイサービスの方が来てもゆっくりゆとりを持って生活できる空間となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫している。 ホール・居間で利用者同士が自分達でレク(かるた・歌・数字合わせ)をしている。難聴の人には大きな声をだして独りにならないようにしている。1人で読書する本も手配している。		

外部評価結果(グループホーム御姫尊)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している。 今までの生活歴を考慮してなじみの思いでの品物、タンス等又、仏様も居室に安置されている居室もある。	利用者の部屋は履き出し窓になっており、避難時にも安心できる。日当たりのよい窓からは燦々と日が入り、気持ちよく午睡されている。ベットはホームが用意し利用者の状況に合わせて高さ等調整している。仏壇を持ち込み自分の家として暮らす利用者もおり安心されている方もいる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している。 利用者各々が容易に手がだせたり、掲示を大きくしたり、その人のADLを考慮して生活がおくれるような居室の配置にも気を配っている。		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>実践につなげている。 GHの「理念」を利用者・家族・訪問者・等見やすい場所に提示して啓蒙に努めている。月2回の会議においてもその都度確認している。</p>	<p>ホーム内には理念が掲げられ、地域密着型としての意義が追加された。管理者やケアマネジャーは日々の中で理念が大切であることを伝えている。職員も利用者に接するうえで利用者の声に耳を傾け、意志尊重を重視しているケアの様子が窺えた。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>日常的に交流している。 この地域のボランティア・区・小学校・ホームの隣組の区費も支払い一員として参加して、お互いに交流を深めている。</p>	<p>地域がボランティアの方が週1回は訪問し話をしたり、小学校との交流もあり運動会に招待されホーム全員参加で席が用意され楽しむ。小学生が定期的に訪問しカルタや歌を歌い、地域との交流は沢山ある。また、伝統ある小学生の歌舞伎への招待もあり特別な行事参加もある。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>活かしている。 地域の人(区長・民生委員等)運営に関して報告をして問題点・支援・など意見交換をしている。又、認知症の人が区の行事にも招待されている。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>活かしている。 同上</p>	<p>運営推進会議は区長、民生委員、包括職員、家族代表等が集まり、ホームの状況説明や出席した小学校側からも交流への依頼や小学生が通うために安全確保のための歩道設置など提案がなされるなど積極的に意見交換がなされている様子である。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>協力関係を築くように取り組んでいる。 市の特に包括支援センターの係長とはお年寄りの支援環境を話し合い、可能な限り協力している。</p>	<p>包括職員とは、町で困難ケースがあれば一緒に考え、入所支援を法人全体で考え、緊急回避できる支援等、連携を取っている。</p>	

外部評価結果(グループホーム御姫尊)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。 マニュアルを手本にして職員会議に勉強会をした。 10/11	外部研修への参加も行い、マニュアルも新たに作成された。玄関の施錠については鍵をかけることの弊害は十分理解されているが、入浴時等職員が手薄の時間等は一時的に施錠することがあるが夜間以外は施錠のない生活に努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	防止に努めている。 マニュアルを手本にして職員会議に勉強会をした。10/11、肉体的虐待は入浴時に注意を払っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援している。 6/9、市社協に来て頂き、自立支援事業・成年後見制度について職員研修を行った。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	図っている。 利用者・家族様より十分な説明を行い同意書を頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	反映させている。 運営委員会においては家族が参加しており、年1回の利用者・家族・ボランティア・区の主だった人との交流会を行い、意見を聴衆している。	年に3回は家族会があり50人以上が参加し盛大に開かれる。そんな機会に家族へ利用者の様子を伝え、家族からの率直な意見を伺う良い機会ともなっている。運営推進会議でも家族が出席し意見の表出しの機会は多数設けている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	反映させている。 月2回の会議を開催して職員の意見・提案を聞き、討論している。	全体会議が月に2回開かれる。職員の意見等は理事長との意見交換ノートがあり意見を反映している。交換ノートを利用しアドバイスがなされたり、検討会議を再度行うなどすぐに回答があり、仕事へ反映される。また月2回リーダー会があり早朝ミーティングでも意見を言う機会がある。	

外部評価結果(グループホーム御姫尊)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。 評価表(自己評価・責任者評価)を年2回実施し、労働意欲の向上を図っている。労働条件に関しては、職員個人の休暇も聞いて要望に応じている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	進めている。 今年度も認知症介護実践研修・開設者研修と3人の研修を受けさせることが出来た。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組みをしている。 施設・病院・包括支援センター・社協の職員が来所して施設の概要・視察などをして相互の介護について話し合っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。 利用者本人の生活歴・身体的・精神面・社会性等利用者家族・本人から聞きだすマニュアルがあり、それにより本人の要望に添うようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	関係づくりに努めている。 サービスを導入する前に利用者本人・家族等に施設に来て頂き昼食も経験して、1日の流れを体験しながら職員との関係づくりをしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同上		

外部評価結果(グループホーム御姫尊)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	関係を築いている。 職員と本人は1日の生活の中でその本人の能力に応じた食事づくり、後片付け、洗濯物の仕分け、たたみ等一緒に協力しあって行っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築いている。 日々の変化、体調不良等生じた場合などは密に連絡して共に解決に向かって努力している。又家族等の交流会を実施して情報を共有している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	支援に努めている。 馴染みの人、家族等が何時、施設に訪問に来てても365日受け入れをしている。又、親しかった人、近所の人と一緒にどうぞと働きかけている。	利用者が住む近隣の人や友達が訪ねてくれる。家人が墓参りに連れていく。利用者が希望すれば利用者の家まで連れて行き安心して戻ってくる。なるべく多くのなじみの方が来てくれるように声かけをしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	支援に努めている。 利用者各々の能力を理解して、その人の役割に応じた生活訓練が出来るように声掛けをしてレク・食事づくり等に参加している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	支援に努めている。 施設から退所しても病院・介護施設に赴き状況を把握して家族の相談にのっている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めている。 入所時に家族・本人に思いや、嫌な事、好き嫌いの食べ物、どのような生活がしたいのか等マニュアルで意向を把握しようとしている。	入所時に、家族や利用者がホームでどのような生活をしたいか、今まで生きてきて楽しかったことや好み等を記録していただき記録票が作成されており、記録を参考に本人本意の生活を把握し検討している。	



外部評価結果(グループホーム御姫尊)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。 同上		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。 一人ひとりの業務日誌、チェック表により、その日の状態観察の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成している。 夜勤者の申し送り事項があればそれを活かし、医療機関・介護関係者・家族等の希望、又職員の意見等考慮して介護計画を作成している。	3ヶ月ごとの評価、見直しを行っている。職員は利用者の担当制をとっており日々の変化を確認し連絡している。また全体会議を月2回行っていることから会議の中で利用者の課題等が話されその都度利用者の状態に即したケアプランの見直しを行っている。家族の意見は来所時に話を聞きプランへ反映する。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている。 NO25に同じ 職員間の情報の申し送りは専用のノートにより共有化を図り実践をしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる。 業務日誌、チェック表、夜勤者の申し送り事項を聞き、介護方法、機能訓練等考えて日常の生活に活かすようにしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。 利用者と職員が関わり、近くの小学校にエコたわし、匂い袋(ラベンダー)を配布したり、運動会、音楽会に参加して交流を図っている。		

外部評価結果(グループホーム御姫尊)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。 道を挟んで診療所があり、受診は容易である。又、急変時においては診療所に連絡をとり往診したりして適切に対応している。家族にも報告・相談している。	かかりつけ医は、入所時に家族と相談し法人の診療所医師が主治医になる。診療所には外科以外の全ての科が整っているため適切な医療が受けられている。受診時には医師との連絡票に記載し指示を仰ぐ体制ができ、職員間の共通認識になる。家族連絡も随時行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。 本人の訴えを医療と連携して訪問看護師に結びつけて、点滴、処置等行っていた。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係づくりに努めている。 利用者が入院した時など病状の推移などの状況を得るため入院先の病院に訪問して退院に向けてのプランを病院側と相談している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる。 家族には入所するにあたって重度化(緊急時含む)した場合、どのような介護・医療がしてほしいか、方針を聞いているようにしている。	ホームは、法人として医療等受けられる施設整備が段階的に整っているため、入居時に医療行為が必要になった時の法人の関連施設の説明も行い、理解や安心を得る。家族の意向を伺い尊重できる支援をしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	身につけている。 利用者の緊急時に何時でも対応出来るようにその利用者ごとに朝・昼・夕・お茶時、一般状態が少しでも変化したら事故発生を想定して初期の対応を話し合っ訓練をしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	協力体制を築いている。 防災訓練を消防署・地元の区の役員で年2回実施している。その時に利用者も一緒に訓練を行っている。	スプリンクラーは設置されている。年に2回の避難訓練と消火訓練がなされている。消防署や区長、民生委員等が参加し実際の避難を行っている。夜間想定した訓練、緊急連絡網の訓練を行っている。法人の関連施設の協力支援体制がある。	

外部評価結果(グループホーム御姫尊)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応をしている。 入所時に利用者本人の生活歴・社会性・身体的・精神的等を家族・本人から聞いて介護に活かして、プライドを確保している。 (マニュアルがある)	マニュアルの整備もなされ、研修会も行われた。排泄時に失禁する利用者にさりげなく部屋に行ったときにプライドを気づけないように汚れたりハパンを片づける等一人ひとりの人格に配慮した対応に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。 いくつかのイベント・ボランティア・地域の行事にも本人の意思を確認したり、食事等においては個人の選択を重視して希望にかなうように配食している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援している。 運動(体操1日に4回)・施設内歩行訓練・食事の摂取時間についても本人のペースに合わせゆったりした時間配分に心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。 家族から着替え、衣服(下着も含む)などお預かりしているので週2回、入浴後本人と相談しながら更衣をしている。3ヶ月に1度、美容師が訪問している。季節ごとに更衣を促している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に準備、後片付けをしている。それぞれの能力に応じて役割を配分して一緒に食事の準備、配膳、後片付けなど創意工夫して和やかな中で行っている。施設内での飾り物も利用者と一緒に役割分担をしている。	献立は曜日で決められているものもあるが利用者の好みを聞き作ることも多い。誕生会には弁当や目先を変え食事を楽しくするように工夫している。定期的に法人の栄養士が来てアドバイスしたり嗜好調査などしている。利用者は一緒にできる方は野菜を切る、配善の手伝いの姿も見られた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援をしている。 入所者の疾患もそれぞれなのでその人なりの摂取方法で対応しており定期的に管理栄養士に確認をしている。		

外部評価結果(グループホーム御姫尊)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアをしている。 1日1回、義歯が大部分ですので、寝る前に全員行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援を行っている。 自己の周囲の事が少しでも出来てもらうため上肢、下肢の筋力をつけている。排泄についても職員が時間に付き添っている。	時間でトイレ誘導する方にも立ち上がった時について誘導したり、本人に無理にならないように誘導する。一人ひとりの排泄パターンを把握することでプライドに配慮した排泄支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防に取り組んでいる。 病気よっての食事の制限もあるので食事には注意を払っている。便秘については繊維食品・水分摂取、又、薬・運動等に注意を払っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々にそった支援をしている。 その人が「入浴したい」と言えば曜日は問わず希望に添うようにしている。	入浴は、基本的には週2回である。一人ひとりの利用者の希望や状況に合わせて、午前中から午後にかけて利用者のタイミングを見て入浴を行う。夏などは利用者の希望でシャワーを毎日行う方もいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	よく眠れるように支援している。 利用者が眠れないような状況の時は職員がホールで本人の言い分を聞き、落ち着かせ安心させるよう傾聴に心がけている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。 症状に応じて、主治医と相談をして薬の投与をしている。薬の用法、用量、副作用等は薬剤師に聞き理解している。又、文献なども用意してもらっている。		

外部評価結果(グループホーム御姫尊)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援している。 それぞれの能力に応じた、好きな役割を提供できるように配慮している。時には嗜好品、利用者の要望を聞き食事・レクにも応じている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	支援している。 春には区主催の「歌舞伎」を観たり「回転寿司」、GHの交流小学校の運動会、音楽会等に参加して利用者に喜ばれている。	暖かい時には玄関先のテラスでお茶を飲み屋外に出て過ごすことが多い。屋外に出たい方は買い物時に一緒にお連れするなど閉じこもりにならないように工夫をしている。音楽会や花見に出かけ、回転ずしに行き自分が好きな物を食べたり、地域からの行事への招待も多く戸外に出掛ける機会も多い。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援はしている。 家族との話し合いの中で僅かな所持金を持っている。本人の要望、必要時においては家族に連絡をとって対応している。時には買い物に同伴することもある。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。 利用者が家族、知人、関係者に連絡をしたい時、ほとんどが電話でその時に即電話をしてやっている。不在の時は夜勤者が便宜をはかっている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫をしている。 共用の場所は利用者本人達が季節ごとの塗り絵をして季節感をだし、貼りだしている。季節ごとのレクを実施している。野外レクの場合は実施後写真を掲載して行動暦を残している。	ホーム内には、利用者が1年を通して屋外に出掛けたり、家族、地域の方と過ごし笑顔いっぱいの写真が貼られ、ぬり絵等も掲示されている。利用者の部屋はなじみの山の名前がつけられており親しみやすい。共有スペースにはデイサービスの方が来てもゆっくりゆとりを持って生活できる空間となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫している。 ホール・居間で利用者同士が自分達でレク(かるた・歌・数字合わせ)をしている。難聴の人には大きな声をだして独りにならないようにしている。1人で読書する本も手配している。		

外部評価結果(グループホーム御姫尊)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している。 今までの生活歴を考慮してなじみの思いでの品物、タンス等又、仏様も居室に安置されている居室もある。	利用者の部屋は履き出し窓になっており、避難時にも安心できる。日当たりのよい窓からは燦々と日が入り、気持ちよく午睡されている。ベットはホームが用意し利用者の状況に合わせて高さ等調整している。仏壇を持ち込み自分の家として暮らす利用者もおり安心されている方もいる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している。 利用者各々が容易に手がだせたり、掲示を大きくしたり、その人のADLを考慮して生活がおくれるような居室の配置にも気を配っている。		